

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300262		
法人名	医療法人鈴鹿クリニック		
事業所名	グループホーム悠々		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町2943番地の4		
自己評価作成日	令和3年11月3日	評価結果市町提出日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490300262-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和3年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社訓の“自分らしく、悠々自適に生活していただく”をモットーに ご自分のペースで動いていただく。ゆっくりと、時間が流れて行く生活を過ごしていただく。
生活の場であるので、日々のこまごまとした所作、行動でスタッフが注意をさせていただく場面もあるが、尊厳を第一に丁寧に、わだかまりがないよう気を付けて声掛けをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム悠々は経営母体が近隣の鈴鹿クリニックであり、利用者の日頃の健康管理や緊急時の医療について連絡体制がとれ、利用者の健康、医療面で安心して生活できる環境にある。コロナの影響で家族とのコミュニケーションの難しい中、利用者の様子を手紙にしたり事業所便りを毎月発行して利用者の家族へ送付する等の取り組みが行われている。また利用者の配薬は前日、翌日に分けて1回毎にそれぞれ薬の色分けしたカゴに入れ間違いのない管理等きめ細かに行われている。新しい管理者のもと、利用者へのスピーチロック(言葉づかい)を中心とした研修会も検討されており、今後理念の実現を目指し職員の業務改善やモチベーションの向上が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に沿ってアットホームな環境の中、利用者様が自分らしく生活ができるよう努めています。	理念「悠々自適に自分らしく生活していただけるよう支援する」が事務所内に掲示しており、実現に向けて毎日確認し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行により残念ながら交流はありません。喫茶店に行くこともしておりませんし、町内会自身も祭りやイベントが中止されている。	コロナ禍により自治会も活動を自粛しており、感染症予防の面からも施設外部との交流は難しい為、地域との交流は現在ではできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は地元の老人会の集まりに認知症予防と銘打って理事長やケアマネが参加していたが、コロナ禍でそういった催しも中止されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、開催はしていない。文面によりホームの現況をお伝えしています。	コロナ禍で運営推進会議は行われていないが、利用者状況、ヒヤリハット等を書面にて報告している。会議のメンバーに今は家族が入っていないが、家族へ毎月全体報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍前はほぼ毎回同じ保険者の職員の方が対応くださり、ご指導を受けながら連携していたが、昨年からは密にとはいっていない。	広域連合へは月に1回、定期報告しており、電話やメールを通して利用者状況等を伝え相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置しており、身体拘束につながらないように態勢を整えている。	身体拘束適正化委員会を設置し年4回の研修会を行っている。特にスピーチロック(言葉づかい)について今後研修の必要性を感じ予定している。また玄関の施錠はあるが、昼間はデッキから外へ出ることができる。	スピーチロックを含め職員の研修について更なる検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い、スピーチロックを含め、虐待のない取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はしているが職員に関しては施設外の参加がなかなかできていない。今後、施設内での研修を試みる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者管理者がきちんと行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常的に《○○してほしい》との声も出る。家族様に関しては用事で電話をしたときや面会時などにご意見やご希望をたずねることにしている。	利用者の用事で電話をする時に家族の要望も聴いている。リモート(Zoom)での取り組みも行ったが反応がなく、今年からは、毎月事業所便り(全体報告)を作成し家族へ送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個別面談を設け、その場で聞いている。また、都度都度、職員からの意見や提案を聞き、できることはすぐにでも、検討を要するものに関しては、ミーティングで話し合いをしている。	年2回の個人面談のほか、職員会議を毎月1回以上開き、その都度職員の意見を汲み取っている。勤務状態等の改善に力を入れているが、スタッフ増員の声も出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握している。また、環境や条件の改善にも善処している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修も善処している。施設外では必要な研修は指名して行ってもらうが、個々の研鑽のための研修は勧めるが自発的にはない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、交流はほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	たまたま、4月に入所された方、5月に入所された方はデイ悠々をご利用で、居宅の利用者様だったので、ニーズについては理解できていた。しかし本人方は環境ががらりと変わり、不安が多いため、安心を得ていただくために努力した。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様、利用者様からの傾聴で得た心配事や不安、疑問にできる限り答えるようにしている。適切なケアができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴と質問、話し合いの中から家族様、利用者様のニーズを見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特にグループホームは生活の場。本人の生活歴を考慮し、今までの生活の延長として《悠々自適》の暮らしをしていただく様職員と一緒にしていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等、家族とともにすることもありますが、コロナ禍により、施設側が単独で受診し、電話での報告とするケースもある。連絡は密にとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、制限をさせていただいているが、面会を通じて関係が途切れないように努めている。	特定の利用者1～2名への面会や手紙はよく届いているが、対する利用者の反応は薄い。以前は家族と買い物と一緒に掛けることもあったがコロナ禍で遠慮し連れ出すことを控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り利用者同士の関係を考慮して席を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	残念ながら、施設側からの積極的なアプローチはしていない。コロナ禍による影響も大きい。電話や訪ねてきてくださる家族様に対してはできる限りの支援はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク、アセスメント、家族様からの聞き取りなどを基に利用者本位のケアを目指している。	外部研修が少なくパワーバランスがくずれてアセスメントが悪くなったと感じている。普段の会話や行動を観察して意向を把握する努力をし、利用者の思いに沿えるよう改善を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや会話にて、また様子行動を観察することで傾向や残存能力を見極める要努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを行い、評価や課題を話し合っている。	3ヶ月に1回カンファレンスを行いミーティングにより課題、目標、ケア状況、家族の意向等も含め評価している。介護計画は作成後、家族の訪問時か直接訪問し署名を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの中、また必要なことを喚起するための会話などで情報を共有し、ケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により、制限されている部分もあるが、職員でできること、例えば、理美容に関しては訪問してもらっていたが、コロナ禍により、職員が散髪を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残念ながら今の状況としては地域資源を利用していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する主治医のクリニックに月に2回定期受診(往診)をしてもらっている。コロナワクチン、インフルエンザの接種なども往診にて行ってもらう。緊急時には受診もしている。いつでも管理者が受診、相談もできる体制が整っている。	利用者全員が月2回の訪問診療を受けている。専門外の診療は職員の同行受診で、歯科は訪問診療と事業所の送迎の2通りがある。薬は職員が専用ストッカーに入れ色分けしたカゴを使用して間違いのないよう配薬している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて看護師と共同できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急や入院時には主治医からの紹介状や施設での生活状況を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設の指針として、契約時に説明させていただく。もちろん、看取り介護が必要になった段階で、家族様と主治医を交え、方針、計画を立て、実行する。	この1年で2名の看取りがあった。入所時に看取りの方針を提示し、早い段階から利用者と家族に終末期の様々な医療や支援の方法を説明し、意向を聞いている。終末期には、再度家族の意向を確認し主治医の指示により契約している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡のマニュアルを活用し、ドクターや管理者に連絡を取る態勢を整えている。ドクターの家に隣接しているので、ドクターに初期対応も委ねている。今後、応急処置や救急法の研修も進めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は春の訓練をしそなかったが、いつもは年に2回の夜間を想定した火災訓練など行っている。	災害防災マニュアルが策定され職員一人時でも慌てず対応できるような避難のフローチャートもある。今年は抜き打ちで訓練を行ったが、非常ベルがなくても行動できない利用者が多いことから、誘導方法の検討課題が明らかになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	“1人の人”として人格を尊重するよう心掛けている。 本人を否定する言葉、不安をもたらす言葉を使わず、支援する言葉かけ、“できる”を意識する言葉かけを意識している。	排泄に関する申し送りは、利用者個人が周りに分からないよう言葉を変えて伝える等配慮している。職員の言葉かけにも注意を払い、更なる理解や共有方法を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示語を減らす取り組み、言葉を変えることで自己決定を引き出す取り組みを行っている。 2者択一、3者択一等、本人の意思を表出させていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の起床時間を見守っている。食事時間、入浴時間についてはある程度時間を決めさせてもらっている。就寝については要介助の方は早めになるが、他の方がたはご自分で好きなようにされる。現実、ベッドで横になられる方が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好きな服はあるが、着回しができる体制や声掛けで支援している。 女性は化粧水や洗髪時のコンディショナー、男性陣には髭剃りの声かけや実施を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みでの食事提供のため、月の行事や誕生日会以外は利用者が手を出すことはほとんどない。	ご飯と味噌汁は事業所で作り、それ以外は調理済のものを湯煎して利用者へ提供している。誕生日にはその人の食べたいものを聞き好みの食事を提供している。おやつを全員で食べ季節の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては自由にとっていただける人、何とか声掛けや、形態を変えて摂取していただく人と大いにばらつきがある。カルピスやジュース、スポーツドリンクをジェル状にして摂っていただくなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯の方にはうがいをさせていただく。義歯の方は入れ、外し、うがい、洗浄はスタッフが支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前の24時間シート利用で、パターンをつかみ、誘導や声掛けで工夫をしている。	24時間シートでのアセスメント結果を基に、把握した一人ひとりの排せつのタイミングを測り声掛けや誘導をしている。大半は自立であるが、少しでも長くトイレでの排せつを続けられるように、尿意のない人もチェックしトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖等、個人に合わせて工夫している。できる方には屋外散歩、屋内散歩の声掛けもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間はある程度決まっている。順番、湯加減などは希望に沿って行っている。	浴室に設置されている椅子リフトを利用したり、グリップをつかみ自力で入浴する利用者もいて週2回の入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しながら、休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携を取り合っている。スタッフも薬には神経を使っている。薬剤情報を整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを依頼して生活の中で役割を持っていただいている。現在はコロナ禍により、キッチン、料理関係ははずさせてもらったことが残念。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、喫茶、地元の祭り等、コロナ禍で外出を制限させてもらっている。	コロナ禍の影響で以前のように外出ができないが近くのコスモス畑へ散歩に出掛けたりしている。広いウッドデッキに出て布団を干したり、畑の風景を眺め日光浴をする利用者もいる。	遠出は難しいですが、事業所周辺を職員と利用者が一緒に散歩し、外気浴する機会を増やすことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍でぱんやさんの訪問もお断りしている。喫茶も行っていない。再度外出できるよう希望します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での訪問はない状態。面会時に時間を制限させてもらっている関係でまごさんからのお手紙をいただき、何度も何度も読んで涙ぐまれる利用者さんも。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどりビングで過ごされるので、季節感を感じられるよう工夫している。日めくりを毎日日課としてくださる人、ベランダに出て日光浴、畑を見る人、居心地よく暮らしていただくよう配慮している。	吹き抜けのガラス張りの多目的室を囲む廊下と各居室は、天窗からの光で明るく開放的な感がある。南側に窓の多いリビングやベランダから外の風景や畑が眺められ寛いだ雰囲気である。廊下には複数の空気清浄機が設置され衛生管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った仲間同士、ある程度席は決まっている。一人になりたいときには好き好きに居室に行かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを・・・と家族様に伝えるが、寝具や衣類程度。クローゼットの容量も多いため、物が収まっている状態で個性は感じられない。	居室のエアコンフィルターは年2回職員が清掃している。クローゼットの中に家族の写真や馴染みの物が入れてあり、外からみると物がなくシンプルである。居室の洗面所にある大きな鏡で自分の身だしなみを確認する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー。手すり設備されており、車いす自走もゆうにできる広さがある。居室は必要に応じ介助バー、ポータブルトイレ設置と利用者に対応している。		